

学校の共通目標

授業作り	重 点	ICT 機器やソフトの効果的な活用法を探求しながら、生徒一人一人の意欲を喚起し、分かりやすいと感じ取れる、工夫された授業づくりを目指す。	最 終 評 価
環境作り		授業規律の徹底、教材の内容や提示方法の工夫、ペア学習等学習形態の工夫をし、主体的に学びに向かいやすい環境づくりの充実を図る。	

教科の取組内容

教科	令和元年度の定着度調査や6月以降の学習状況に基づく分析	学力向上に向けての生徒の課題	改善のための取組	追加する取組等（12月）	年度末の取組評価（2月）
国語	<p>調各学年ともに、1月に行われた学力調査では、全国平均・区平均を上回った。2年生では関心意欲や、話す聞くの数値が平均を大きく上回った。これは、日々の授業で主体的に表現しているからだと考え。3年生では、読む・書く力が平均を大きく上回った。これは日々の授業で読む、書くをこまめに行ってきたからだ考える。</p> <p>学第1学年はそれぞれ課題となる分野が違っていたので、今後はそれぞれに合わせて対応していきたい。</p>	<p>学第3学年では、書くことには少しずつ慣れてきたものの、話し合い活動で積極的に発言していくことを苦手としているので、話す機会を多く取り入れていくことが必要。</p> <p>学第1・第2学年では、漢字等の知識も含めて、書くことに積極的でない生徒が多いので、書く機会を増やしていくことが必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 第3学年は、話し合いやディベートなどの機会を多くして、論理的に話す機会を多く作っていく。 第1・2学年では、漢字の小テストを週に一回行い、漢字の知識を定着させていくとともに、單元ごとのまとめを必ず書くなど、書く機会を多く作っていく。 		
社会	<p>調知識・理解については平均的な正答率だが、思考・判断・表現の問題や、資料活用の技能の問題に対する正答率が低い。また、調査より前に学習した内容についての正答率が低い。</p> <p>学授業には良く取り組むが、資料を読み取ったり、自分で理由を予想して他者に伝えたりすることを苦手としている。また、記述などで自分の考えを表現する力も不十分である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 資料を活用して考える力をつける。 知識の定着度を上げる。 ワークシートなどでくわしくていねいに記述する力をつける。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の導入や展開で資料を読み取る回数を増やし、資料を読み取ることに苦手意識を少なくする。 授業後の小テストの実施で知識の定着を図る。 ワークシートに自らの考えを書かせて、グループ内やクラス内で発表させる機会を増やす。考えなどをしっかりと評価して、表現することに自信をつけさせる。 		
数学	<p>調各学年ともに、1月に行われた学力調査では、全国平均・区平均を上回った。</p> <ul style="list-style-type: none"> 2年生では領域別正答率、観点別正答率ともに平均正答率を大きく上回っている。特に、多くの生徒が苦手に感じる「証明」や「関数」の正答率も高く、これは日頃から習熟度に合わせたワークシートを用いた反復演習に注力したためと考えられる。 <p>学1年生は領域別、観点別正答率ともに平均正答率を上回っているが、問題別の正答率では基礎的な問題の正解率は高いが、「活用」の問題の正答率は他に比べて低くなっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な学力が身に付いた生徒は、さらに力を向上させたいという意欲をもたせる必要がある。 授業に集中できない、提出物を期限内に出せない生徒は、自分のレベルに応じた課題にねばり強く取り組み、基礎・基本となる知識や技能を身に付けること。 	<ul style="list-style-type: none"> 学力調査の結果を活用して、自信をもたせながら、フォローアップワークシート等を活用して個に応じた指導を充実させる。特に、教材に工夫をし、数学を日常の生活の場面に使う題材などを用意し、既習事項を活用させる力を身に付けさせる。 授業態度や小テストの受け方などの課題について、習熟度別少人数授業の利点を活かして、教員間の情報交換を密にし、個々の生徒に応じた教材の作成を行うなど、学習意欲を向上させる。 		
理科	<p>調区の学力調査では、第3学年は基礎の分野、第2学年は基礎・活用の分野に以下のような課題が見られた。新しく学習した項目の理解は十分であるが、以前に学習した項目の理解は不十分である。</p> <p>学実験を多く取り入れているため、技能や思考・判断・表現の観点では向上が見られている。全体的に授業では理解しているものの、知識の定着が不十分である。各学年とも実験に良く取り組み、授業にも前向きな生徒が多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 第3学年は1、2年で学習したことを忘れていたことが多いため、実習や復習のための演習実験を多めに取り入れ知識の定着を図る必要がある。 第2学年は実験結果を知識として定着させたり、応用させたりすることができるように実物・実体験と教科書の内容を結びつけて考えられるようにすることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 第3学年では、時間の許す限り復習の実験なども実施して、記憶を呼び起こすようにしていく。第3学年の内容についても、ワークシート等を使い、知識を定着させる。 第1、2学年は、実験の充実を継続しつつ、実験のまとめをワークシート等を活用して、丁寧に行い、実験結果を、知識や法則性につなげられるよう指導する。 実験を行にくい単元(天体等)に関しては、ICT機器を効果的に利用して補っていく。 		

英語	<p>調第2学年では、全体として目標値を上回ることができているが、活用の数値が低くなっている。また領域別では「読むこと」について、目標値を下回っている。観点別では、「知識・理解」について、目標値を下回っている。第3学年は、全体として目標値を下回っており、観点別でもすべての観点で目標値を下回っている。</p> <p>学基礎・基本の定着が不十分なため、自分の表現したいことを表現できないで、記述問題に苦手意識をもって生徒がいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・書くことに苦手意識のある生徒のために、表現するために必要な基礎的・基本的な単語や文書の定着が必要である。 ・対話の内容を読み取って資料をもとに答えること、対話の流れに合った英文を再生して書くこと、長文の内容を理解して感想や賛否及びその理由を書くことを身に付ける。 ・基礎・基本の定着が不十分な生徒には、継続して、復習課題に取り組ませる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書くことに対する苦手意識を減らしていくために、毎時間小テストで簡単な短文を書かせる活動を行い、記述による表現力を伸ばす。 ・読む力を伸ばすために、さまざまな英語表現を与え、教科書以外にも様々な英文を読みとる機会を十分に与えていく。読んだあとの活動として、感想や賛否およびその理由を書く課題を与える。 ・基礎・基本の定着を図るために、副教材を毎回の授業で課題として出し、家庭学習に取り組ませる。 		
----	---	--	---	--	--

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況

※分量は2ページ以上となってもよい。